

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	ノースカロライナ州立大学との COIL 型教育の継続とその教育的効果に関する研究				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	澤崎 宏一
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	澤崎 宏一

講演題目	ノースカロライナ州立大学 (UNCC) との COIL 型教育の継続とその教育的効果に関する研究
------	--------------------------------------------------

研究の目的、成果及び今後の展望

筆者は、UNCCとのCOIL型教育を5年間にわたって継続させてきた。10月から12月までの約8週間にわたり、両校の授業履修者がネット掲示板等で情報交換するというものである。本研究では、活動5年目にあたる2023年秋の成果を調査し、1年目(2019年)から3年目(2021年)の調査結果と比較した。

図1は、英語力の達成感について結果を示している。4技能について、向上したと思うかを1-5のスケールで回答させた。全体的な傾向として、年を経るに従い達成感は向上しているが、「読む・書く」については2023年結果で有意に減少していた。2023年結果で有意に向上していたのは「聴く」に関してであった。

活動の満足度については、肯定的な印象5項目と否定的な印象5項目について、活動前と活動後に1-5のスケールで回答を求めた。その結果、肯定的印象が否定的印象を有意に上回っていた。また、否定的印象については、平均回答値が2019年(2.3)、2020年(2.6)、2021年(3.0)、2023年(2.8)となり、2019年に比べて2020年と2021年が有意に平均回答値が高かった。

これらの結果から、年を経るごとに必ずしも達成感や満足度が向上するわけではないことがわかった。これは、活動参加者や活動の細かな内容は年により異なること等が原因の一つと考えられる。また、活動の負荷と満足度は必ずしも相関しないことも、満足度の解釈には考慮すべきことと思われる。

図1 英語力の達成感

